

【該当ページ】 55

【意見等の該当箇所】 2 (1) 一人一日当たりの家庭系ごみ排出量について

【意見等の概要】

日頃、自宅前までごみ収集に来ていただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。空になったごみ箱を見る度に「ありがとうございます」と頭を下げています。皆様のご尽力等でごみの量が減っていることに少しだけ安堵しています。

我家ではコンポストで生ごみ処理をしているので燃やすしかないごみは週1回の小袋でほぼ足りています。

しかし全ての家庭でそれが可能ではありません。

生ごみやおむつを回収していただければ、ごみの量も減り燃焼効率も上がるのではないのでしょうか。

大木町やみやま市のような回収はできないものなのでしょうか

そうすれば排出量の目標をもっとさげることができるのではないのでしょうか。

ご検討いただければ幸いです

【市の回答】

ご指摘のとおり、大木町やみやま市のように、生ごみや紙おむつを資源化できれば燃やすしかないごみを減らすことが期待できます。しかし、生ごみや紙おむつを別に収集し資源化するには、出し方のルールや回収容器の設置場所等諸々の課題がありますので、地元行政区との協議や説明が必要になると思われます。

また、生ごみを資源化するためには、高額な施設の建設が必須であり、立地場所の確保等の課題が生じますし、建設後は施設を運営するための費用が毎年度発生します。

紙おむつの資源化に関しましても、回収委託料はもとよりそこまでの運搬委託料、処分料、回収容器の購入設置費等の費用面に関し、調査を行う必要があると考えます。

そのため、生ごみや紙おむつの資源化については、諸々の課題等を総合的に判断しますと難しいのではないかと考えます。

市といたしましては、今後ごみの減量化に努めてまいります。

【計画の反映】

なし